

氏名	福造敦子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第140号
学位授与年月日	平成23年3月10日
学位論文題目	育児休業より職場復帰した看護師の職業 アイデンティティ

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	145	(ふりがな) 氏 名	ふくぞう あつこ 福造 敦子
修士論文題目	育児休業より職場復帰した看護師の職業アイデンティティ		
<p>目的 育児休業を取得し職場復帰した看護師の職業アイデンティティが変容したのか、変容したのであればどのように変容したのか、およびその形成要因を明らかにすることである。</p> <p>方法 A 大学医学部附属病院にて 2005 年以降に育児休業を取得し、職場復帰後は 1 年以上勤務している看護師 6 名を対象に、半構成的な面接によるデータ収集を行い質的帰納的な手順によって分析した。</p> <p>結果 分析の結果、「患者との相互作用における変容」と「看護師の思考・行動を導く要因」の異なる 2 つの構成要素が抽出された。これらは、患者との向き合い方における対人関係的な要素と、その背景要因として存在する看護師側の要素である。「患者との相互作用における変容」として、【いつでも受容できる態度】【深く共感する態度】【感情の自己コントロール】【患者に合った対応】【根拠に基づく看護】が抽出された。また、「看護師の思考・行動を導く要因」として、【職業人としての自己の存在価値を実感】【看護に対する思い入れ】【職業人としての揺らぎ】【役割実践における困難さ】【安心できる周囲の環境】が抽出された。そしてこれらは、正の要素と負の要素、環境の 3 要素から成り立っていた。</p> <p>考察 共感や受容という対人関係を強化させ、より患者に相応しい対応が可能となっていた。このような背景要因として、女性のライフイベントを経験し再び職業人として看護にかかわることが密接に関係していた。彼女らは、職業選択の動機や空白の時間に生じた看護への思いから【看護に対する思い入れ】があった。家庭を築き家族との絆の意味を自覚しており、【いつでも受容できる態度】や【深く共感する態度】で患者に接することができた。【患者に合った対応】や【感情を自己コントロール】する能力は、育児休業期間に子どもとの相互交流の中で獲得していたと推察される。【根拠に基づく看護】と共に、「患者との相互作用における変容」を形成していた。こうした彼女ら特有の体験は、人格的な発達を相乗作用的に促進させ、【職業人としての自己の存在価値を実感】することに結びついていた。《看護師—母親の役割間葛藤がある》という【役割実践における困難さ】や《仕事と家庭の板挟み》《自問自答を繰り返す》という【職業人としての揺らぎ】は、彼女らの「個」としてのアイデンティティを揺るがしかねず、自分自身を見つめ直す機会となった。【安心できる周囲の環境】によって、精神的・社会的に支えられながら職業に邁進することが可能となっていた。</p> <p>総括 職場復帰した看護師は、「患者との相互作用における変容」に表されるような、対人関係に重要な人格的成長を遂げていた。成人期初期という女性の生涯発達過程における多くの課題に直面し、その中で意識的・無意識的にかかわらず新たな付加価値を獲得していた。また、職業アイデンティティの発達過程については、【職業人としての揺らぎ】に表されているように、看護師としての自己像を見つめ直す大きな転機となって彼女らの職業アイデンティティを揺さぶっており、現段階においては、まだ模索している状態である。そして、育児休業より職場復帰した看護師は、「個」としてのアイデンティティや「関係性」に基づくアイデンティティが複雑に絡み合っており、職業のみを自らのアイデンティティの中核に据えることが困難な状況にあることが示唆された。</p>			